

第80回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2016年1月11日(月) 14時～17時

兼題「風花」「探梅」

- 川井素山 ○ガード下背^{せな}だけ見ゆる夜鳴そば
鴨の陣われて水脈引く縦横に
風花の仕舞ふ庭師の髪に解く
障子ごし背の暖かき初点前
- 保井寶正 ○梵鐘に風花舞ふや比叡山
読初めの一句一茶を好になり
屠蘇汲むや子等の抱負を聞く家族
斜め日の居間の奥まで冬至かな
- 青木英林 ○探梅の里に人影見当たらず
今年又年寄り集ふ初湯かな
風花の舞ふ街角に薄日射す
雑煮喰ひ今年の息災願ふ朝
- 後藤克彦 ○墨一滴落ちて直しの賀状かな
風花を見惚れ空上ぐ家族連れ
公園に芋を持ち寄る焚火かな
先見へぬ長蛇の列の初詣
- 佐久間喬 ○松の内巻ぐせままのカレンダー
風花や露天湯つかり風を見る
暖かき梅を探せばそこかしこ
父母の墓一家総出の初詣
- 丸山酔宵子 ○歳重ね何が残るか実万両
音も無く玉砂利に散る寒椿
昼下がりペダル軽やか探梅行
風花が白樺に舞ふ浅間かな
- 菊地崇之 ○ママ心七種粥や暖簾下げ
探梅や府中の郷にそこかしこ
羽子つきやラケットシャトル品変る
元旦やメール送りゲームアプリ

- 牧野里山 ○酉の市熊手の波が行き違ふ
冬日濃し園児の声が弾けおり
日向ぼこ空の青さに雲一つ
熱を出しふと見上げれば風花か
- 吉田啓悟 ○津軽では五臓六腑の冬囲
初空はつらぬくような伸びをして
ひとつかみ薬味の葱や縄暖簾
風花とおもふ間もなく見当たらず
- 佐久間たか子 ○探梅の歩き疲れてふと香る
焼芋の両掌に熱さ渡しける
風花に知らず知らずの急ぎ足
大鍋に鮮やぐ翠七日粥
- 山本草風 ○年の瀬や今年の懺悔墓掃除
風花といふ名の芸子越後旅
探梅に一人遊びて居酒屋へ
酒飲みて火照りを覚す夜鷹蕎麦
- 金森純女 ○主なき小庭包むや木の芽雨
ひだまりに何つえばむか寒雀
風花や見上げる人の赤き耳
豆腐下げ帰る道筋冬茜
- 佐伯武雄 ○多言語が飛び交う宵の初詣
去年今年きしむ体になりけり
風花の言葉少なき親子かな
スケッチの手がとまりたる探梅行
- 大山龍海 ○七十路は雑煮祝いもしみじみと
風花の二ひら寒し鉛空
破魔矢受けさだめ創らん今年こそ
探梅や庭木に宿り山思ふ

次回「萩句会」

日時 2016年2月8日(月) 14時～17時

場所 下目黒住区センター第二会議室

兼題『春泥』一句 当季雑詠三句 計四句